日本共産党の山口正子です。
先ほどの健康福祉常任委員長の報告に対して、議案第 84 号国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について、議案第 89 号病院事業の設置等に関する条例等の一部を改正する条例の制定について、会派を代表して反対の立場から討論を行ないます。

（中略）

次に、議案第 89 号病院事業の設置等に関する条例等の一部を改正する条例についてです。この条例改正は、松戸市立福祉医療センター東松戸病院および介護老人福祉施設梨香苑を 2024 年令和 6 年 3 月末日で廃止するというものです。

東松戸病院・梨香苑を廃止する理由として、1 つは経営問題があり、東松戸病院は経営改善を図ったが一般会計からの繰り入れが削減できるまでの経営改善には至らず、コロナ禍で経営は厳しさを増していること。2 つ目に施設の老朽化と耐震性の問題があり建て替えが必要だが財政上困難、ということが大きな廃止理由となっています。しかし、この 2 つが本当に東松戸病院・梨香苑を廃止する理由として市民の皆さんには納得できるでしょうか。そもそも市立病院の現地建て替え 64 億円という市長公約を破り、市立総合医療センターには 300 億円近いお金がかかりました。公約違反の 230 億円分のお金があれば東松戸病院は 4 回も立て直すことができました。財政を困難にしたのは東松戸病院のせいではなく、市長あなたの責任です。審査でも述べましたが、廃止のことを知らない市民も多く廃止の理由も勿論ですが、廃止方針が知らされてからの説明も不十分であり、検討期間もわずか半年間という短い期間しかないままでは、廃止方針を受け入れることはできません。

2017 年に設置された市立病院のあり方を考える「松戸市病院運営審議会」では、東松戸病院の経営改善の取り組みがなされており、2019 年度の達成状況をみて方向性を決めるという答申が出されました。2019 年度は前年度に比べ 5000 万円以上の医業収益がプラストとなり一般会計からの繰入額は 3300 万円ほどの減額となっていました。病床利用率も 86.9%と市立総合医療センターや船橋・柏市立病院より高く医療ニーズに応えていた実績があります。しかし、2020 年度はコロナ禍で入院も外来利用者も減少して、コロナ入院受け入れなども行ないましたが医業収益が落ち込み、コロナ禍の収入減少を廃止の決定打としています。ところが隣の柏市では凍結されていた市立病院建て替えについて、松戸市と違って昨年 11 月、「経営改善を建て替えの条件とはせず、既に地域包括ケアの一翼を担っていることから、地域や市域における医療体制のバランスが崩れてしまう恐れがあるため現地での建て替えを進めていく」との方針が出されました。松戸市と正反対の方針決定です。東松戸病院の老朽化については、地域医療を守ることを考えればこれまでも改修や建て替えは可能だったはずです。これからでも建て替えすべきだと地域での説明会やパブリックコメントで多くの市民から意見が出されています。建て替えにお金がかかり市の財政を圧迫することはできないとの市の一点張りの言い分は、市民の意見を聞こうとせず十分な説明や検討期間も無く、廃止ありきの市の考えがありありと伺えます。廃止を決

めるときの昨年 6 月と 8 月 2 回の審議会はそれまでの公開から非公開の密室会議となっていました。

審議会直後の昨年 8 月の新聞報道で東松戸病院・梨香苑の廃止方針が知らされるという事態に市民は驚きました。その後市議会には 9 月説明があり、市民への説明会は市民からの要望でようやく東松戸病院周辺に限られた一部の地域のみを対象として 11 月行なわれました。5 回の説明会に市長は 1 回も顔を見せず説明もしていません。市民への説明が十分行なわれないまま 1 月はパブリックコメントで市民の意見は聞いたというものの、意見を寄せた 189 人中 170 人 90%の人が廃止は反対と存続を求めたにも関わらず、計画の修正はまったく行なわれていません。ましてや寄せられた意見にも応えないまま廃止が進められようとしています。パブリックコメント終了から廃止条例提案までわずか 12 日間のみで、市民の意見を把握ししっかり検討したとはとても考えられません。市民への説明も市民からの意見把握もあまりにも軽視されています。

先の予算委員会では議会に対する不誠実な対応も浮き彫りになりました。東松戸病院は新年度 48 床が縮小される計画です。「まだ決定していない病院廃止を前提に病床を削減するのか」との問いに対して、「東松戸病院の廃止に関わらず実施するものだ」という答弁がありました。これは極めて問題ある答弁であります。先ほど中西議員が指摘されていましたが、2 月 16 日付けの市の資料には「東松戸病院の閉院に向け病床を再編・縮小する」と明確に記載されています。「病床削減と東松戸病院の廃止は関係なし」とはなんと明確な虚偽答弁ではないでしょうか。「関係ない」とは言っていない「かかわりなく」といったなどと上塗りの答弁がありましたが、桜を見る会で「幅広く募ったが募集はしてない」という安倍元総理の発言と同じではありませんか。その都度、行き当たりばったりで議会答弁を変えるなど、もはや審査の前提を欠いた姿勢の極みであり、賛否を論ずるに値しない提案であると断じざるを得ません。

東松戸病院・梨香苑は 1991 年、「松戸市の急速な高齢化へ備えた高齢者に対する保健・医療・福祉の連携した包括的な医療の拠点」として、当時の市長は委員会を設置し市民との懇談会を繰り返して開院しました。当時の市内の高齢者数はおよそ 3 万数千人から現在 13 万人と 4 倍近くに増加しましたが、高齢者の受け皿となる施設、特に医療の回復期・慢性期病床は東葛北部地域でおよそ 3000 床不足することが千葉県の医療連携構想として示されています。東松戸病院の廃止でさらに不足となります。民間医療機関を誘致するということですが、入院・リハビリ・緩和ケア・老健施設が一体となって、地域に根ざして一連のケアができる公立病院の存在は、地域住民にとってなくてはならないものです。民間に同様の内容ができるとは考えられませんし、民間誘致についてはまだ問い合わせ程度ということで、この 4 月から 48 床が削減されるにもかかわらず回復期・慢性期の病床は確保されていない状況です。この状況での病院廃止の提案など断じて許されるものではありません。東松戸病院・梨香苑は緑豊かな環境の中にあり、施設を利用する人にとって心をいやしてくれます。地域住民の方は高校生も含めて東松戸病院の院内外でボランティア活動を行い、職員と一緒になって病院・梨香苑に愛着を持って守ってこられまし

た。地域住民を含めた医療講座も度々開かれ、医療の質向上も図られ、医療機能評価も優良病院の認定を受けている病院です。東松戸病院・梨香苑の存続を求めた署名が既に本日提出を含め 5500 筆を超えて市長に提出されています。市長はこの署名に込められた思いと重みをしっかり受け止めるべきです。

国が 2019 年に急性期医療を担っている 440 近くの公立・公的病院の統廃合を打ち出して、コロナ禍医療が逼迫する中でも撤回していません。国の効率化を優先した医療機関や保健所等の削減ではなく、この間のコロナ禍でゆとりを持った拡充への見直しこそ必要と多くの国民が実感したところです。松戸市の 2 つの市立病院は急性期と回復期で互いに補い合い、2 つともなくてはならない病院です。財政が厳しいから廃止するのでは市民のいのちや健康は守れず、市立総合医療センターまで民営化されてしまいます。松戸市立病院は国の医療機関の統廃合の対象になっていないにもかかわらず、コロナ禍で東松戸病院・梨香苑の廃止は国民や市民の意向に逆行しており撤回すべきです。市民合意を得るための検討を行なう期間が必要です。市民合意のない大型開発にかかる予算を、市民の医療・福祉を守ることにこそ予算をかけるべきと訴えます。

以上述べまして、松戸の宝である東松戸病院・梨香苑を廃止するこの議案の反対討論といたします。討論へのご賛同をお願いします。